

学校教育目標	○ よく考える子ども ○ けんこうな子ども ○ すすんで働く子ども ◎ 思いやりのある子ども	【目指す学校像】	職員が組織的に協働して、児童が主体的に活動し、生涯学習の基礎を確実に身に付け、家庭・地域の信託に応える学校
		【目指す児童・生徒像】	未来の創り手として、自ら考え、創造力・表現力に富み、互いを尊重し人の為に尽くす、心身共に健康で活力に満ちた子供
		【目指す教師像】	児童・保護者・地域の願いを受け止め、熱い心と志を持ち、変革に應ずることなく、使命と役割を遂行し、結果に責任を持つ教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策	
確かな学力	自律的に学びに向かい、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く子の育成	主体的に学びに向かい、力の涵養とともに、学習習慣の確立	「学びのすすめ」「自主学習ノート」「寺子屋」の推進等、授業と家庭学習との連携強化	4   寺子屋…実施回数90%以上 3   寺子屋…実施回数80%以上 2   寺子屋…実施回数70%以上 1   寺子屋…実施回数70%未満	4	4   学年×10分の家庭学習…90%以上 3   学年×10分の家庭学習…80%以上 2   学年×10分の家庭学習…70%以上 1   学年×10分の家庭学習…70%未満	3	○推進プラン改善充実 ▲自主学習の推進	学習習慣は、学校だけでは補えない部分もあり、家庭と連携し、学校、家庭、地域で幅広く取り組むことが望ましい。	B	【自主学習ノート】と【学びのすすめ】の核とし、学習習慣を定着させる。【寺子屋】の指導内容・方法を個別最適、家庭との連携強化。	
			生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得	UDやICT、授業スタイルやノートの統一、板書や発問の工夫等、効果的な学習指導	4   教科でのICT活用…90%以上の授業 3   教科でのICT活用…80%以上の授業 2   教科でのICT活用…70%以上の授業 1   教科でのICT活用…70%未満の授業	4	4   診断シート平均正答率…70%以上 3   診断シート平均正答率…60%未満 2   診断シート平均正答率…50%未満 1   診断シート平均正答率…40%以上	4	○個別最適な学び ○板書構成の工夫改善	授業では、本時のあて、既習事項を生かす、振り返りなど、基礎学力の定着を図っている。予習や復習も大切である。	A	【学年・教科担任制】の充実により、授業の質を向上させる。ICTやUDを活用した【分りやすい授業スタイル】で効果的に指導する。
			未知の課題に納得解を導き、新たな価値を創造する力の育成	「探究ノート」を活用した課題解決等、自ら考え判断し表現する学習と深い学びの重視	4   探究ノートの活用…年20回以上 3   探究ノートの活用…年10回以上 2   探究ノートの活用…年5回以上 1   探究ノートの活用…年5回未満	3	4   主体的に課題解決…90%以上 3   主体的に課題解決…80%以上 2   主体的に課題解決…70%以上 1   主体的に課題解決…70%未満	4	○主体的な学びの充実 ▲新たな価値の創造	新たな価値とは何か、もっと具体性がないと、新しい社会の変化とともに、イメージがつかないのではと感じる。	B	【ふみ探究の目】を核に、探究的な学習を一層深めていく。生活科と探究のキャリアを改善し、【6年間】で系統的に育成する。
豊かな心	認知機能を高め、自分も他の人も尊重し、敬意をもって大切にできる心豊かな子の育成	個性を生かし、相互の信頼関係を深め、自己有用感の醸成	「h-U」の結果を生かした児童集会や縦割り班活動等、異年齢集団の活動の推進	4   異学年活動…実施率90%以上 3   異学年活動…実施率80%以上 2   異学年活動…実施率70%以上 1   異学年活動…実施率70%未満	4	4   社会通念上のいじめ…0~5件 3   社会通念上のいじめ…6~15件 2   社会通念上のいじめ…16~30件 1   社会通念上のいじめ…31件以上	4	○穏やかな学校生活 ○自己有用感が向上	ふれあい月間の【弟の授業】、WebQUNなど豊かな関係性を醸成。【挨拶】【靴の陣を揃える】など家庭とともに凡事徹底を継続する。	A		
			認知機能を高め、自他共に敬意をもって関係する力の育成	「コグトレ」や学級活動の工夫による認知機能や感情統制、やり抜く力等の重視	4   コグトレ…実施率90%以上 3   コグトレ…実施率80%以上 2   コグトレ…実施率70%以上 1   コグトレ…実施率70%未満	4	4   認知機能の向上…90%以上の児童 3   認知機能の向上…90%以上の児童 2   認知機能の向上…70%以上の児童 1   認知機能の向上…70%未満の児童	3	○自他を認め合う意識 ▲コグトレの系統性	子供も大人も、様々な認知の違いがあることを知ることから始まり、より良い人間関係を作るきっかけとなっていると思う。	B	認知感情統制一対人スキル等、社会性を【コグトレ】で育成する。【異年齢の縦割り班活動】交流及び共同学習を一層充実させる。
			自他を大切にし、よく生きる、内面に根ざした道徳性の涵養	問題解決的あるいは体験を通じた発問構成の工夫、広い視野で考え議論する道徳	4   考え議論する道徳…実施率90%以上 3   考え議論する道徳…実施率80%以上 2   考え議論する道徳…実施率70%以上 1   考え議論する道徳…実施率70%未満	3	4   自分事として考える…80%以上の児童 3   自分事として考える…70%以上の児童 2   自分事として考える…60%以上の児童 1   自分事として考える…60%未満の児童	4	▲議論する道徳の工夫 ○思いやりの心が醸成	道徳の授業や日常生活において、思いやりの気持ち、善悪の判断を指導する教員の一貫した関りが求められると思う。	B	【考え議論する道徳】の授業展開、【人権集会】で豊かな心を育成する。【朝読】【短作文】などの取り組みで、1日を中心やかにスタートする。
健やかな体	基本的な生活習慣を身に付け、運動に親しみ、心身共に健康で活力に満ちた子の育成	新しい生活様式と健康教育・食育推進を改善、充実、徹底させる。	「グッドモーニング60分」等、新しい生活様式の定着と、食育の計画的な推進・充実	4   グッドモーニングの取組…90%以上の児童 3   グッドモーニングの取組…80%以上の児童 2   グッドモーニングの取組…70%以上の児童 1   グッドモーニングの取組…70%未満の児童	4	4   病欠児童…1日の平均0~3人 3   病欠児童…1日の平均4~7人 2   病欠児童…1日の平均8~11人 1   病欠児童…1日の平均12人以上	3	○生活習慣の定着 ▲スマホ依存増加傾向	食材にこだわり、郷土料理など、食に興味を持てる機会を与えている。低学年は、うがい手洗いの継続的な声掛けが必要。	B	【リズムマホデー】等、スマホやゲーム依存の対策。【給食課】栄養士と協働して、計画的な食育を推進する。	
			基礎的な体力の向上と生涯に渡り運動に親しむ資質能力の向上	「元気アップガイドブック」を活用した運動習慣につながる授業の工夫、家庭との連携協力	4   元気アップの取組…18項目以上 3   元気アップの取組…14項目以上 2   元気アップの取組…10項目以上 1   元気アップの取組…10項目未満	3	4   運動することが楽しい…90%以上の児童 3   運動することが楽しい…80%以上の児童 2   運動することが楽しい…70%以上の児童 1   運動することが楽しい…70%未満の児童	3	▲運動習慣の改善 ▲元気UP活用充実	元気アップを取り入れた、児童が参加しやすい取り組みが行われているが、運動が苦手な児童への配慮や支援が必要。	A	元気アップガイドを活用した【元気アップタイム】を拡大・充実。休み時間の【外遊び】【学級レク】を推奨、体を動かす時間を確保。
			居場所づくりや心に寄り添う相談など、悩みを抱えない相談体制	スマイルの活用その他、全学年で「SOSカード」を活用した多様な対処方法を推進	4   学級外の児童支援…90%以上の教員 3   学級外の児童支援…80%以上の教員 2   学級外の児童支援…70%以上の教員 1   学級外の児童支援…70%以上の未済	4	4   大人に相談できる…90%以上の児童 3   大人に相談できる…80%以上の児童 2   大人に相談できる…70%以上の児童 1   大人に相談できる…70%未満の児童	4	○ストレスゼロ学校生活 ○ふじみスマイル効果	先生たちがきめ細かく指導してくれていて、子供たちの相談に乗ってくれている。安心した学校生活が送れている。	A	【学年担任制】等、すべての子供にとって学校が安心できる場所とする。【SOSカード】の活用で、いつでも相談できる雰囲気醸成。
輝く未来	未知の課題を思索し、新たな価値観や行動を生み出し、協働して未来を創造する子の育成	言語能力とともに、未知の課題に向き合い思索する力の育成	学校図書館に学習・情報センター機能をもたせ、全教育課程で言語活動を充実	4   図書館機能を活用…全学級月4回以上 3   図書館機能を活用…全学級月3回 2   図書館機能を活用…全学級月2回 1   図書館機能を活用…全学級月1回以下	4	4   言語能力向上…80%以上の児童 3   言語能力向上…70%以上の児童 2   言語能力向上…60%以上の児童 1   言語能力向上…60%未満の児童	4	○図書館の活用充実 ○語り合い活動の充実	言葉の教育の大切さを校長先生が掲げ、全校でそれが統一されて活動を行っている。短作文や読書感想文の指導がよい。	A	【短作文】【読書感想文】【調べ学習】のつながりを重視する。思考力を核とつづ、【語り合い】の時間と内容を【一層充実】。	
			情報活用能力とともに、新たな解を創造する力の醸成	1人1台の端末やオンラインの活用など、見方・考え方を働かせながら思索する場の充実	4   タブレットの活用…全学級週10回以上 3   タブレットの活用…全学級週6~9回 2   タブレットの活用…全学級週3~5回 1   タブレットの活用…全学級週3回未満	3	4   論理的思考力向上…80%以上の児童 3   論理的思考力向上…70%以上の児童 2   論理的思考力向上…60%以上の児童 1   論理的思考力向上…60%未満の児童	4	○探究ノートの活用 ○探究学習の深化	ICTを活用して授業でも効果的な使い方が見られる。インターネット上については、確認、徹底が必要だと思う。	A	MISHプロジェクトを活用してプログラミング的思考を深める。本校の6年間の【情報活用能力指導計画】に基づき、着実に育成。
			教科横断的に6年間を見通した教育課程全体を住還させる。	調べ学習コンクール参加等、家庭や地域と連携・協働した自己実現への手立ての充実	4   全教科で課題解決学習…100%の学級 3   全教科で課題解決学習…90%以上の学級 2   全教科で課題解決学習…80%以上の学級 1   全教科で課題解決学習…80%未満の学級	4	4   主体的に探究…80%以上の児童 3   主体的に探究…70%以上の児童 2   主体的に探究…60%以上の児童 1   主体的に探究…60%未満の児童	4	○縦割り班活動の充実 ○各種賞の上位入賞	子供たちは課題追求するだけでなく、新たな課題に出会って、また取り組む姿勢を見せたい。さらなる充実を期待したい。	A	【未知の課題に対峙する力】を育成する機会を意図的に設定していく。6年間の【探究力】を系統的・計画的に積み上げていく。